

25年連続で食味ランク特A！

日本穀物検定協会が公表した平成25年産米の食味ランキングで、最も食味が良いとされる『特A』を獲得したのは、前年より9銘柄多い、過去最多の38銘柄が選ばれました。

なかでも魚沼米は、平成元年から25年間連続、特Aランクを獲得しており、他の産地のどこもが目指しているいわば『米業界の金メダル』を受賞し続けています。

北魚沼米を食べて下さる消費者は、『とびきり美味しいコシヒカリ』を求めており、その期待を絶対に裏切ってはなりません。

魚沼の強みに気づき、活かそう！

米の需要量は減少し、販売状況が厳しい中でも依然として魚沼産への評価は高く、低価格志向が強いといえどもニーズは千差万別で、ファン層は必ず存在するとの自覚が必要です。

雪の厳しさや圃場の条件の悪さは大きなハンディとなりますが、視点を変えれば、その豊かな自然環境こそ、他の産地が絶対に真似できない、魚沼地域最大の武器となります。

米の生産目標数量は減少し、農業経営には大変厳しい環境ですが、『米の品質や食味』より『収量だけ』を追い求めて市場評価を低下させることなく、先代たちが血と汗と涙で築き上げた『魚沼米ブランド』をさらに高めるために、『世界最高の米づくり』を実践しましょう。

なぜ、今、土づくりなのか!!!

米の飽和化市場で、新規に顧客を獲得していくためには『ブランド力向上』が最重点課題です。

- 基本価値（品質・食味や安全性の証明など、製品の基本価値の部分）と
- 物語性（製品そのものを超えたストーリー性）を
向上させるために、今こそ、産地一丸となって取り組むことが重要です。

基本価値



物語性



ブランド

『品質・食味向上』に向けた、4つの26年度技術対策（①初期生育量確保、②適正中干しと水管理の徹底、③適期収穫の推進、④土づくりの推進）のうち、米の基本価値を向上させるための『土づくりの推進』に的を絞って、特集を組んで稲作情報をお届けします。

- 平成25年産米の品質低下要因のひとつに倒伏があげられます。倒伏は食味も低下させます。『倒伏に負けない頑丈な稲づくり』のためには、土づくりが極めて重要となります。
- JAでは今年も土づくり肥料に対する助成を行います。（単価・品目は別途お知らせします）

来月号へつづく...